

なぎさ

川内原子力発電所
NAGISA

2025年
9月号
No.238



「出来は良かよ」(薩摩川内市樋脇町) 撮影:駒走 信文(ピン写連)

阿久根市立
西目小学校三年
柏木 瑞喜さん

きみとぼくの夏休み

「よし、つれてかえろう」

強そつなかつこいいはさみ

んっ

ジタバタ ジタバタ

小さな足が

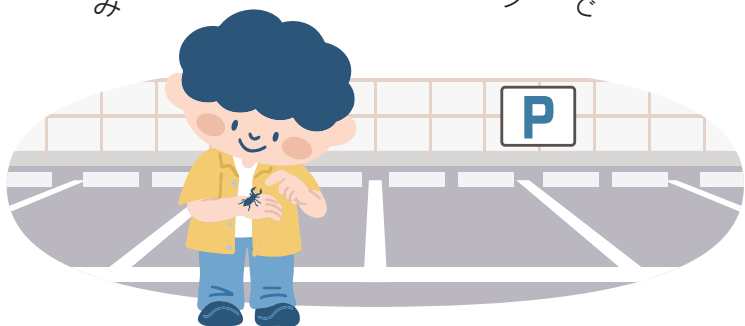
ひつくりかえつてバタバタ

お店のちゅうしゃじょうで

「クワガタ」

子供たちの

詩



九州電力

ずっと先まで、明るくしたい。

さつま狂句 (川内がらっぱ狂句会)

兼題「大て」
大て夢ば 見ちよつじやろそな 可愛ぜ寝息 松下ジャンボ
【唱】将来ちや学者かスポーツ選手
兼題「送つ」
誕生祝 送つ来たどん 着払らい 鈴木ぼつけもん
【唱】金の浮かそち狡し所帯魂

ほくさつ料理 アラカルト

レシピ:阿久根市食生活改善推進員協議会

柿プリン

栄養豊富な柿。その中のペクチンと牛乳のカルシウムが結合して、寒天やゼラチンを使わずに固められます。手作りおやつにどうぞ。



材 料 1人分

柿2個、牛乳は柿の半量
必要に応じて砂糖、ハチミツ※、
練乳など
※1歳未満の乳児には与えない
てください。アレルギーのあ
る方は控えてください。

作 り 方

- ① 柿の皮をむき、種を取って、ミキサーにかけてピューレ状にする。
- ② ①に牛乳を加えて混ぜる。甘みが足りなければ砂糖、ハチミツ、練乳などで補う。
- ③ 器に入れて、冷蔵庫で半日ほど冷やして固める。

川内原子力発電所からのお知らせ

川内原子力発電所の 状況について

2025年9月現在、川内原子力発電所1、2号機は、安全・安定運転を継続しております。

1号機は昨年7月に運転開始40年を迎えました。また、2号機は今年11月に運転開始40年を迎えます。あらためまして、これまでの皆さまのご理解とご支援に感謝申し上げます。

1号機は10月中旬から、2号機は来年1月下旬から定期検査を実施する予定です。電力を安定して送り届けるために、そして、皆さまに安心していただけるよう、安全最優先で作業を進め、しっかりと設備の点検を行います。

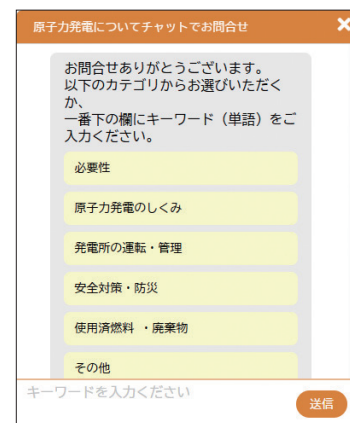
これからも、皆さまに安心し、信頼していただけるよう、ご意見・ご要望などにしっかり耳を傾け、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーション活動を推進するなど、分かりやすい説明に努めてまいります。



原子力発電に関する疑問に チャットでお答えします

当社ホームページ上に原子力発電に関するお問合せ用チャットを設置しています。

これまでに寄せられたご質問などをもとに一般的なご質問に回答します。



画面イメージ



原子力発電に関する
主なページに
設置しています

なぎさ

2025年9月発行

〒895-0132 薩摩川内市久見崎町 九州電力(株)川内原子力発電所
TEL:0996-27-3111 発行人:坂栄 聡 印刷:(株)オフセット

～「サーキュラーパーク九州」が目指すもの～

薩摩川内市から発信する 「資源再利用」構想

化石燃料や金属、鉱物など、地球のあらゆる資源には限界があります。人口増加とともにその消費スピードも上昇する中、今私たちに求められることは、限りある資源の有効活用と再利用です。川内火力発電所跡地で昨年からの稼働を始めた「サーキュラーパーク九州」は、その最先端を目指しています。

子どもや孫たちが
将来安心して暮らせるために

今の社会状況がこのまま続けば、石炭は約130年、石油は約50年で枯渇するといわれ、その他多くの資源が100年以内に採掘できなくなるかと予想されています。つまり、今のままでは私たちの子どもや孫世代は、生活が脅かされる状況になるわけです。

そんな危機を好転させるべく検討されたのが「サーキュラーパーク九州」の構想です。現在、家庭や企業から出た廃棄物は、回収されるものの、分別・選別後にすべて再生されるわけではありません。多くが海外へ運ばれて処分されるなど、国内でのリサイクル・リユースは不完全です。

このような中、サーキュラーパーク九州株式会社（以下、CPQ）は、九州電力とナカダイホールディングスにより2023年7月に設立されました。CPQは、広大な敷地、海に隣接して資材の搬出入に最適などの好条件が揃っていた九州電力の川内火力発電所跡地を活用し、「資源活用」の最先端拠点を目指しています。



（右上）長年電力を供給してきた川内火力発電所跡地が、新たな資源循環拠点として生まれ変わる。（右下）かつてタービンが設置されていた建屋を活用して、学習やくつろぎの空間へ。（左上）川内商工高校の生徒も、「城山ホテル鹿児島」から出た廃材を活用するアイデアを出した。（左下）水引小学校の児童もサーキュラーパーク九州を見学。資源循環の大事さをしっかりと感じ取った。

廃棄物処理から再活用、資源化
さらに「学び」と「憩い」の場にも

集められた廃棄物、たとえば金属、OA機器などは新しい製品の原材料に、古紙や廃プラスチックは固形燃料とし

てエネルギー源へと再資源化され、そのまま再利用できるものは中古品として譲渡されます。

またCPQでは、廃棄物を出す側の企業へ「コンサルティング」も行います。廃棄物処理のコスト、再資源化の成果などを報告し、よりよい資源活用へのアドバイスをするわけです。

若い世代も関心を寄せ
資源活用に積極的な参加も

こうした資源の有効活用は、未来を担う次の世代を考へてのこと。実際に、CPQの活動には、地元の川内商工高等学校の生徒も参加しています。県内大手の「城山ホテル鹿児島」でコロナ禍中に使われたアクリルパネルの処理について、高校生が活用を模索し、ホテルで使われる手荷物預かりタグや案内板などに生まれ変わらせました。関わった高校生も、実際に社会に役立つ学習ができた、今後の指標になったようです。

また、近くの水引小学校の児童も、社会科見学で施設を訪れました。「今までもゴミの分別は大事と思っていたけど、こうして新たな資源に生まれ変わることにわかって、もっと真剣に考えたい」などの感想が出たそうです。

若い世代の注目に応えるために、そしてこれからの地球環境を少しでも良くするために、CPQの展開には大きな期待がかかっています。

すこっと
行きたーるうがい

自分で収穫したら格別！「あくね農業体験ツアー」（阿久根市）

猛暑だった今年の夏もようやく過ぎて、待ちに待った秋の気配。田んぼや畑も色づいて、収穫を待っています。

この実りの季節をぜひ体感してほしいと、阿久根市で毎年行われているのが「あくね農業体験ツアー」です。

日ごろ家庭で食べる野菜や果物、米などは、それがどこでどんなふうに育ったのか知らないことがほとんど。実際に生産者を訪ねて、畑を一緒に歩いて、自分の

手で収穫したなら、そのおいしさはより感動的でしょう。それを一人でも多く知ってほしいと、2015年度から阿久根市と有志がこのツアーを開始しました。去年は17名（6組）が参加。親子連れやご夫婦などが多く、旬を迎えたスナッペンエンドウ摘みやシイタケ収穫、イチゴ狩りなどを体験し、作業後は地域の集会所で手作り昼食に舌鼓を打ちました。きのこご飯やタカエビ唐揚げ、がねなど、阿久根の食材が使われました。

この体験を通じて、野菜嫌いだった子どもが食べられるようになったり、大人も阿久根の食材の良さを改めて知ったりとすこぶる好評です。

今年は10月19日（日）に開催で、極早生みかんの収穫などが体験できます。申し込み締め切りは10月6日（月）です。阿久根市内はもちろん市外からの参加も歓迎です。秋の一日、自然の恵みとともにいい汗をかいてみませんか。

【問い合わせ】
阿久根市農政林務課（平日のみ）

☎0996-173-1142



絵も交えながら、自由な表現が己書の魅力。

自分の思いを
素直に筆にのせて

サークル紹介

おのれしよ

「己書パラダイス講座（幸座）」

●いちき串木野市



己書を指導する中道いつみ先生。
「心のままに楽しく書きましょう」

こうざ

「己書パラダイス講座（幸座）」

●いちき串木野市

「己書（おのれしよ）」という言葉をご存じでしょうか。一般の書道とは異なり、書き方や書き順にとらわれずに、自分の思いのまま自由に筆ペンを走らせて、心に浮かぶ言葉や絵を表現する…いわば、「描く書、読める絵」が己書です。

ここいちき串木野市の「働く女性の家」では、5月に講座が始まり、現在40～60代までの6名の皆さんが楽しんでいます。

指導の中道いつみ先生は、字の決まり事や形などではなく、筆の持ち方や運びなどちよつとしたコツを指導されます。

「ほとんどが初心者の方です。中には書道歴十数年という方もいらつやいます。『自由に描けて楽しい』と言われますね」

初回講座では「ありがと」と書いてから、お題に沿って思い思いに筆を走らせま。この言葉も、まず心をやわらかくほくしてくれるのです。

字のそばには、お地藏さまなどをなごやかに描いた絵も。そして出来上がった作品は、皆さん持ち帰って玄関などに飾ったり、ハガキにして友人や親類に送ったりされます。「己書」のモットーである「その日からアーティスト」を、まさに実現しています。

己書パラダイス講座（幸座）

【開催】毎月第3木曜日13時～15時

【対象】市内在住または市内勤務の女性

☎0996-132-17130

（いちき串木野市働く女性の会）



昨秋も、家族連れなどが参加して阿久根の食材を堪能した「あくね農業体験ツアー」